

大学案内

1988

京都精華大学

Kyoto Seika University

美術学部——造形学科・デザイン学科

短期大学部英語英文科

男女共学

風を切つて自由に翔ぶ。

■目次

〈知的空間〉としての大学／学長 笠原芳光■2

京都精華大学の沿革■3

学科課程 英語英文科

広い教養の習得を理念として■4

新しい発見をしたい人へ■5

授業紹介■8

VOICE①■10

海外研修■12

夏の英語セミナー■14

教員組織■15

学科課程 美術学部

専門領域で広い視野に立つ■16

造形学科 洋画専攻■17

日本画専攻■18

立体造形専攻■19

版画専攻■20

“開かれた大学”を目指して／学内図

陶芸専攻■21

デザイン学科 ビジュアルデザイン専攻■22

アーバンリビングデザイン専攻■24

テキスタイルデザイン専攻■26

マンガ専攻■27

学外実習制度■28

VOICE②■30

教員組織■32

図書館案内■33

アッセンブリーアワー■34

クラブ・行事■36

学外教育施設■37

厚生■38

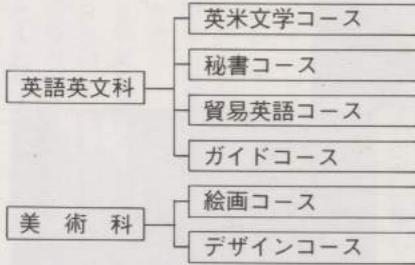
卒業後の進路■40

所在地図

●表紙—岩崎たつお「雨あがり」(部分)

・テキスタイルデザイン'87年3月卒業

1968(昭43) 京都精華短期大学(共学)を開学



「アッセンブリー・アワー」始まる
「The Kyoto Seika English Papers」
発刊

1969(昭44) 美術科に染織コース増設

「木野通信」刊行始まる

1970(昭45) 「木野評論」(年1回刊) 発刊

1972(昭47) 英語英文科に国際文化コース増設

1973(昭48) 美術科に立体造形コース、デザインコ

ースにマンガクラス増設

第2外国語に朝鮮語開設

1975(昭50) 伊谷記念朽木学舎オープン

「The Kyoto English Papers」を

「Kyoto Review」に改称

1979(昭54) 京都精華大学美術学部開設

造形学科(洋画・日本画・立体造形)

デザイン学科(デザイン・染織・マンガ)

京都精華短期大学英語英文科は京都

精華大学短期大学部英語英文科に改称

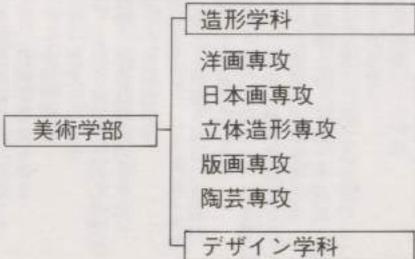
1982(昭57) 京都精華短期大学美術科を廃止

1985(昭60) 丹後学舎オープン

1986(昭61) 美術学部造形学科に版画専攻と陶芸専

攻、同デザイン学科にアーバンリビ

ングデザイン専攻の増設を決定



マンガ専攻



〈知的空間〉としての大学

学長 笠原 芳光

大学とはなんでしょう。ひとことで言え
ば「知的空間」です。

まず「知的」とはどういうことでしょうか。
おおよそ「知」についての考えかたは、いま大
きく変わりつつあります。この変化に気づか
ないなら、新しい大学とはいえないでしょう。
新しい、とは古き、よきものをあらたに発見
するという意味でもあります。

知の変化の第一は従来、とくに大学におい
ては理性が万能であるかのようにみられてい
たのに対して、感性も重要であることがわか
ってきたことです。また知の表現として、も
っぱら言葉が中心であったのに対し、イメー
ジも大切であることに気づきました。第二に
第二に知はいわゆる頭脳だけの問題ではな
いということです。それは精神も身体もすべ
てを含めた人間の問題であります。いかに頭
がよくても、それだけではつまらない人間で
す。大学はなによりも全体的な人間の形成、
人格の陶冶にとめたいものです。

第三に知は静止的なものであるとともに活
動的であり、実践的なものであります。静か
に思い、深く考えると、おなじようにいきい
きと語ったり、体全体であらわしたりするこ
とも大切です。いわゆるパフォーマンスや演
技も、また社会的な行動や実践も、新しい知
の動的な表現であります。

はじめに大学は知的空間であるといいまし
たが、その「空間」とはなんでしょう。空
間とは、ふつうなにもないスペースを意
味します。でも大学のキャンパスには教室、
実習室、研究室、図書館、食堂などの建物
があり、グラウンドや道路や樹木もあります。
そして学生や教職員といった人々がいて、そ
の空間はかなり埋められています。

ゆとり、自由、遊びといったものが存在して
います。学問や芸術をきわめるとは、そのよ
うな自在の境地に到達することでしょう。
学生諸君が大学で過す四年間、あるいは二
年間の生活は、長い人生からみれば僅かな時
間であり、広いとはいえぬ空間であります。
しかし、そこには入学するまでの受験勉強に
なかつた自由があります。また卒業後に過す
であろう実社会での職業生活にはない余裕が
あります。

しかし、たとえ狭い場所であっても、そこ
に自由な雰囲気、自由な風が吹いてい
れば、それは「空間」であります。空間とは、
なにかで区切られ、限られた領域のことでは
なく、無形の流動する空間をいうのです。

その自由や余裕はきわめて貴重なものであ
るとともに、危険なものです。自由は人間を
無限に向上させるとともに、かぎりなく墮落
させるものでもあるからです。

空間はまた、かならずしも直接には有用な
ものではなく、むしろ無用のものであります。
いや無用の用であります。大学には余分のもの
、余計なもの、余裕、余白といったものが
必要です。

おおよそ学問や芸術の本質には、そのような



似顔絵 田中貞之
(マンガ専攻87年3月卒業)

大学という知的空間には、このようにすば
らしいもの、またおそろしいものが充滿して
います。どうか、この大学において、新しい
全体的な知性を涵養し、きびしく自由な学風
を体得していただきたいものです。